

演奏団題名

日付

曲名など

基礎項目

正確なリズム	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
正確な音高と音程	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い

発音と発声

全体的な母音の音色	明るすぎる	多少明るい	バランスが良い	多少暗い	暗すぎる
全体的な音の響き	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い	
高音のサポート	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い	
低音のサポート	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い	
子音の明瞭さ	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い	

音楽的な要素

レガートの歌唱	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
フォルテの豊かさ	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
ピアノの繊細さ	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
ダイナミクス・松葉の処理	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
アーティキュレーション	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
パートのバランス	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
言葉によった音色や音量変化	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い
言葉によったテンポ・時間変化	1 頑張れ	2 もう少し	3 良い	4 とても良い

舞台表現

立ち方など	1 気になる	2 特に気にならない	3 良い	4 素敵です
表情	1 気になる	2 特に気にならない	3 良い	4 素敵です

基礎項目に関して

音楽は時間との芸術で、リズム能力は音楽基礎力の中で最も大切なものです。基礎練習の中で体全体を使ってリズム能力を高めていきましょう。

正確な音高と音程をとるには、歌唱基礎訓練が不可欠です。声は基本的に下がっていく傾向がある、ということ踏まえた上で、軟口蓋や頬の筋肉を上げ、声を不安定にする要素を取り除きつつ、正しく音程をとる練習やカデンツなどのハーモニー練習をしましょう。

発声と発音に関して

母音は、舌の盛り上がり口の前の方にあると明るめに、後ろの方にあると暗めになります。楽曲スタイル、音域、音量、音楽性などによって様々に変化ができるようになると表現の幅が広がります。

音の響きを充実させるには、まず喉が空間が開いて声の基礎倍音群が豊かに響くことと、舌の形が適切であり高次倍音群が響くことの2つが必要です。それには、あくびの喉の開放感（喉の空間の確保）と、声を遠くに飛ばすイメージ（舌が落ち込まないようにする）をもつとよいでしょう。

高音と低音のサポートは、特に息を吐くときの自然なサポートが必要なことはもちろんですが、低音を歌うときには高音のつもりで、高音を歌うときには、「当て」にいかず、「高音が寄ってくる」または「歌いとおす」といったイメージを持って歌うことも大切です。

子音の明瞭さは、楽曲の言葉の表現にもフレーズに表情をつける上でも不可欠です。特に「K」「T」「TS」といった持続させることのできない無声音は、他の音と比べて特に聞き取りづらくなる、ということを理解したうえで取り組むとよいでしょう。

音楽的な要素に関して

歌唱はレガートで歌うことが基本です。レガートで歌う、ということは技術的には、音価の100%母音を伸ばすことと（子音のせいで母音が短くならない）、全ての母音の質を統一させること、そして、音が階段のように段々に動くイメージではなく、綺麗なアーチのイメージをもって滑らかに歌う、つまり滑らかに自然な勢いを持って音の移行が行われている、という3点が大切です。

ダイナミクスは、エネルギーを保ったまま、フォルテを豊かに、ピアノを繊細に、松葉は滑らかに演奏したいです。少人数ではフォルテをより豊かに、大人数ではピアノをより繊細に、松葉は両極のダイナミクスに向かうときに自然になるよう声のサポートに気をつけましょう。細かいアーティキュレーションや指示も見逃さず、より音楽的で効果的な表現を工夫しましょう。

混声では、男声と女声間、同声内であれば一番上と一番下の音量と音質・母音の質のバランスに気をつけましょう。目立つパートの言葉のアクセントやイントネーションが必ずしも自然に処理されている曲ばかりではないので、合唱全体でバランスがとれた音になるように各パートの細かい調整をしましょう。

歌詞がある以上、私達は歌詞を聴きます。歌詞の自然で生き生きとした表現こそ、素晴らしい歌表現の根底に流れているものです。楽譜に書いてある指示を鑑みた上で、心と体全体をつかっただけで自然で立体的な言葉の音楽表現ができると素敵です。

舞台表現に関して

舞台芸術の面白いところは、観客は舞台の何処を見ても良い、ということです。立ち方、服装、髪型、そして特に表情は、それ自体が歌手手とその声に大きな影響をあたえ、もちろん観客の皆さんも含めた舞台の雰囲気作り、総合的な演奏空間作りにも大きく影響するものだ、ということ踏まえて素敵な演奏をする、または素敵な演奏会の時間を多くの皆さんと作ることができるとよいですね。

VOWELS

合唱や勉強で接することの多い3つの言語の母音概要です。

口語日本語 (5母音)

i, え, a, o, う

とけあいやすい合唱日本語 (5母音)

i, ε, a, o, u ([i]は少し[i]の方向へ)

合唱ラテン語 (5母音)

i, ε, a, ɔ, u ([i]は少し[i]の方向へ)

クラシック・声楽・RP英語 (12母音)

i, I, ε, æ, a, ɔ, ʌ, o, u, ʊ, ə, ɜ

* 英語に「小さいツ」はありません。

* [i]と[i]は歌の英語では致命的な間違いになりやすい。

- o 右のチャートは、縦軸が口の開きを、横軸が舌の盛り上がりの位置を表しています。母音が2つ横に並んでいる箇所は、左が「唇の丸まりなし」右が「右が唇の丸まりあり」ということを表します。

